

複式学級指導に学ぶ子どもの主体的な学習の在り方 ～県外附属小学校やへき地校での複式授業を視察して～

The ideal method of the independent Study in Combined Class

— Report of the Study in Combined Class at Fuzoku Elementary Schools and Small Schools —

加治木徹, 古河賢一郎, 宮崎幸樹, 宇都克則, 所崎陽, 本田康幸, 栗山義人,
久保博之, 小菌博臣

KAJIKI Toru, FURUKAWA Kenichiro, MIYAZAKI Koki, UTO Katunori, TOKOROZAKI Akira,
HONDA Yasuyuki, KURIYAMA Yoshito, KUBO Hiroyuki, KOZONO Hiroomi

キーワード：学年別指導

1 はじめに

近年、児童数の減少により、複式学級を有する小学校は、鹿児島県内にある小学校の約40パーセントと年々増加傾向にある。

鹿児島大学教育学部附属小学校は、複式学級を設置し、教育学部と連携を取りながら、学習指導を効果的に進めるための理論と方法を研究し、その成果を県下の複式学級の教育振興に寄与しようとしている。そこで、三大学連携の一環として、県内外の離島・へき地や県外附属小学校の現状を把握し、今後の研究に生かしていくために、複式学級の研究会、複式学級における学年別指導や同単元同内容の授業を視察した。その成果と課題を報告する。

2 各研修視察報告

(1) 長崎大学教育学部附属小学校の研修視察について

① 研修視察校の研究

ア 研究テーマ

かかわり合い高め合う力を育てる学年別指導

～子ども同士の話し合いから、ナゾを解く～

イ 研究内容

複式学級という「家庭」の中に、「話し合い活動」を位置付けることで、互いを分かり合い、自分たちの学びを自分たちで深いものにできないだろうかと考え、単式にはない学びを創り上げ、自己の夢に向かう子どもを育てようといった研究である。

② 複式授業を参観して

ア 単元

複式低学年 1年「0のたしざんとひきざん」 2年「10000までの数」

複式中学年 3年「サーカスのライオン」 4年「ごんぎつね」

複式高学年 5年「わたしたちのくらしと環境」 6年「世界の人々とわたしたち」

イ 授業内容(教師の関わり)

どの授業でも、かかわり合う力の高まりを期待して、課題追求したことを互いに発表し合う場面を計画的・継続的に設定していた。また、課題追求の場面で子どもたちの教え合いや同時個別指導の時間を設定し、課題解決に向かわせていた。

③ 成果と課題

- 課題追求の時間帯が重なるような学習過程を仕組むことで、両学年の学びの様子を同時に見取り、その状況に応じて個別に支援することができていた。
- 間接指導時における子ども同士の学び合いがなかなか活性化しなかった。活性化するためには、学習課題の設定はもちろん、日頃から子ども1人1人が「伝え方」「聞き方」「質問の仕方」といった学び方を身に付けておく必要がある。

④ 感想

学年別指導の最大の課題は間接指導をいかに効果的に進めることができるかである。「話し合い活動」を活性化させることが重要であることを再認識させられた。

(2) 三大学連携複式シンポジウムに参加して

① 国語分科会に参加して

ア 研究・実践内容

本分科会は、前半はICT (Information and Communication Technology) を使った国語の授業展開例の紹介、後半は国語科の複式授業における学習過程の提案であった。

ICTを使った国語科授業 提案者 福元真太郎 (奄美市立緑が丘小学校)	新しい国語科の学習過程 提案者 亀崎智明 (龍郷町立大勝小学校)
<p>○ 文学的な文章の内容読解の授業場面で、デジタル教科書を黒板に写し、その文章を全体で音読したり、登場人物の心情が分かるところに線を引いたりすることに使用。</p> <p><例> 5年 6年 「わらぐつの中の神様」 「やまなし」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin: 5px 0;">本時のめあての設定後</div> <p>教師による説明を聞く。(本時の進め方など) 教材文を黒板に写</p> <p>教材文を黒板に写</p>	<p>○ 授業の導入において、児童が自ら問題を見だし、めあてを設定させる手立てについての紹介。</p> <p><例> 「スイミー」2年</p> <p>T : 「この前の学習では、スイミーは<u>どこ</u>で<u>だれと</u>泳いでいたかな？」</p> <p>C : 「スイミーは広い海のどこかで兄弟たちと泳いでいた。」</p> <p>T : 「今日の学習ではスイミーは<u>どこ</u>で<u>だれと</u>泳いでいたかな？」 <u>(この間に隣の学年にわたる。)</u></p> <p>C : 「スイミーは暗い海の底を一人で泳い</p>

<p>し、登場人物の行動や考え方の分かるここに線を引く。</p> <p>※ 上記の□囲みの部分で機器を使用</p> <p><その他・留意点など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機器は効果が上がると判断した場面において使用する。 ・ 児童だけで機器を使えるようにして、主に間接指導時に使用する。 ・ 書写指導，作文指導，漢字指導においてもデジタル教科書を使うことで，間接指導を行うことができる。 	<p>いの考えをもとに，学習の進め方などを話し合う。</p>	<p>でいた。」(ワークシート等に記入)</p> <p>C：「なぜ，スイミーは暗い海の底を一人で泳いでいたのかな？」</p> <p>めあて：『なぜスイミーは，暗い海の底を一人で泳いでいたのだろうか。』</p> <p><その他・留意点など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予め，教師が学習問題を焦点化して課題を設定する必要がある。 ・ 「深める段階」での話し合いを活性化する手立てとして以下に示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問題解決への手がかりとなる板書 わたり前後の見届け など</p> </div>
--	--------------------------------	---

イ 成果と課題

いずれも，複式学級ばかりでなく単式学級でも使える指導方法だと感じた。また，自ら課題を見つけ，学習問題を設定することや，個の学びを共有し，互いの学びを交流し合うことで，主体的に学習に取り組む姿が期待できる。この学びの過程を教児がともに意識しながら展開することで，さらに，効果を上げられるものと感じる。

ウ 感想

価値観の多様化に伴い，特別支援教育や個に応じた指導が求められる現在の教育において，それに応える指導技術を教師は持たなければならない。複式学級での指導はその個に応じた指導技術の宝庫のように感じた。単式学級でもその技術は生かされるべきであり，学ぶべきものであると，再認識させられた。

② 算数分科会に参加して

ア 研究内容

「算数科複式授業改善の試み～テレビ会議システムを使用した遠隔へき地間協同授業～(鹿児島大学：植村哲郎・鹿児島市立山下小学校：吉元宣博)」というテーマでの実践発表であった。発表者からは，複式学習指導の基本的な考え方として，

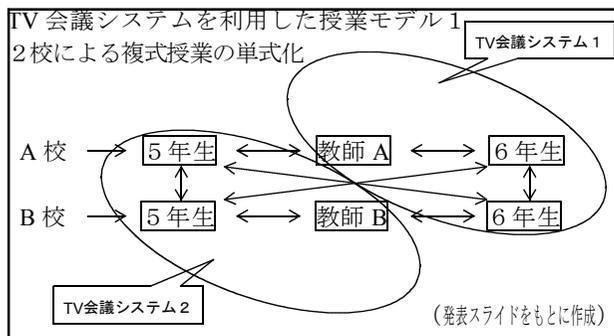
- ・ 少人数であることを生かし，一人一人にきめ細やかな指導を通して，基礎・基本の確実な定着を図ることができる。
- ・ 数多くの自学自習の経験を生かし，自ら学び自ら考える力の育成を図ることができる。
- ・ 2学年の児童生徒で構成されていることを生かし，上学年と下学年の関わりを通して，学年を越えて学び合う態度を育てることができる。

の3点が挙げられ，一方で，課題としては，

- ・ 同単元指導で行いたいのが難しい。
- ・ 学年別指導（わたり・ずらしのタイミング）が難しい。

などが挙げられた。

以上のことから課題を利点へ変換する一つの方策として研究が進められた。



同単元類似内容の授業例として、3年生の棒グラフと4年生の折れ線グラフの学習内容を、パソコンを利用した提示をしながら、同時に学習を進めていく実践が紹介された。

また、学年別指導の授業例として、5年生の割合と6年生の比例を、TV会

議システムを利用して、2校で考えを深め合っていく実践が紹介された。

これらの実践は、上の図のような授業モデルで図式化され、実践後のアンケートによると、児童からは、「色々な考え方が出てよく分かった」「同学年でやると自分の考えが楽しく言えた、久しぶりに2人以上で勉強できたのでうれしかった」、教師からは、「わたりやずらしの負担を軽減できる。」「複数の学級の同学年の児童同士がリアルタイムに学習できるので、良い意味での競争心も湧き、学習意欲を喚起できると思う。」「学習者の数学的な考え方も多く出されることにより、練り上げのための意見交換の質が向上すると思う。」などの結果が得られたと紹介された。

イ 成果と課題

- 協同学習が、児童の考え方の多様化や練り上げ学習の効果に、また、学習指導上のわたり・ずらしの負担軽減、学年別指導の場の設定に寄与していることが分かった。
- 各学校のカリキュラム、進度の配慮を行うために、年度初めから計画的に進める必要がある。また、機器活用の研修や通信回線の状態などに配慮する必要がある。

ウ 感想

2学年で構成される複式学級のよさをより広い範囲で発揮させるために、本実践は、非常に価値があると感じた。今後、ハード面の整備が進むと、さらに研究の可能性が広がり、様々な教育活動に生きると考える。

③ 理科分科会に参加して

ア 研究内容

「間接指導時に主体的に学習を進めるための工夫（わたる前後の見届け）」

間接指導の時間は、単に練習の場として位置付けるのではなく、子ども一人一人が自ら学び自ら考える力をはぐくむ時間としてとらえることが大切である。したがって、

直接指導では子ども一人一人の追究の仕方やそれに伴うつまづき等を予測した上で、活動内容や方法などを的確に伝えたり、間接指導では主体的に学習を進めていけるように個に応じた指導の手立てを準備したりしておくことが大切である。

具体的な手立てとしては、見通しをもたせた後の間接指導時において、ワークシートを工夫したり、ホワイトボード・短冊等を活用したりしている。

【ワークシートの工夫】

- ・ 授業のねらい（学習問題の解決）が十分達成できるもの
- ・ 内容の精選を図ったもの
- ・ 板書との関連を図ったもの
- ・ 自力解決が可能であるもの
- ・ 学習過程に沿ったもの（学年当初において、学習過程を身につけるまでの期間）

【ホワイトボード・短冊の活用】

- ・ 子どもたちが考えを練り上げていくときに活用する。
- ・ 間接指導から直接指導にわたってきたときに子どもたちの学習状況を把握できる。
- ・ 教師が短い時間で子どもの考えを見取ることができるように、書き方を統一する。

「指導内容の重点化」

複式学級指導において、単式学級のように両学年を進めると、問題解決の時間が不足し、十分な観察・実験や納得した理解を得られず、学習のまとめまでいたらないことも多い。その結果、主体的な学びの態度を育成しにくくなり、基礎・基本の定着を図ることも難しくなる。そこで、この課題を解決するためには、目標分析や綿密な教材研究をし、指導内容の重点化を図ることが大切であると考えた。

【指導内容を重点化する際の手順】

- ・ 子どもに身に付けさせたいことは何かを教師が意識する。
- ・ 目標及び内容を分析する。
- ・ 一単位時間での見方や考え方で両学年で一番大切なことは何かを明らかにする。
- ・ 教師の指導の立場を明確にする。
- ・ 指導内容に応じて、指導の軽重や学習過程に「ずらし」と「わたり」を位置付ける。

イ 成果と課題

- ワークシートと板書を一体化したことで視覚的にとらえやすく、間接指導時に子どもが考えやすくなった。
- 指導内容の重点化を図っているが、授業時間を超過してしまうことが多い。

④ 音楽分科会に参加して

ア 研究内容

「離島へき地の音楽教育と歌唱・合唱指導法」とし、複式授業における成果や異なる学年の子どもたちが、一緒に活動する場面が多いがゆえに抱える課題について研究を進めている。

イ 成果と課題

- 少人数である利点を生かした音楽科の授業の展開や離島での音楽活動全般における現状について研究を深めることができた。

少人数である利点を生かした音楽科の授業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別指導の場において個人の学びに関わる時間を確保できる。 ○ 技能面での支援をより丁寧にすることができる。 ○ 異学年での編成であっても合同音楽などの場を設定することで協同的に作り上げていく雰囲気を作ることができる。 ○ ガイドへの指導をすることがパート練習等で生かされる。
離島での音楽活動全般における現状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域が一体となった演奏会などが多い。 ○ 地域での音楽活動（CD収録等）に選曲的に参加する姿が見られるなど音楽活動に取り組む姿勢、心意気、態度がすばらしい。 ○ 合同学習として有効な合同音楽会を開催している。 ○ アンサンブルにおいて、技能面の高さが伺える。 ● 教師側の立場から、異学年の活動での学年差への対応に対する悩みが多いということや間接指導の際、主体的学習をどのようにして進めるかについて改善策を模索していく必要がある。 ● 歌唱においてだけではなく、器楽指導においても音色に対する意識を高める必要がある。（特に静音という観点から）

- 離島・へき地の音楽教育における今後の改善点を明らかにすることができた。（以下は今後解決していく必要があるとして挙げられたもの）

技能面の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師自身が、指導内容についての研究を深め、自信をもち多様な指導方法を獲得する必要がある。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元の曲、西洋の名曲等を含めた多様な選曲をする必要がある。 ○ 発声について学ぶことができる教材曲を選曲をする必要がある。
指導法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新学習指導要領において新設された共通事項にも関連して、学年を越えて指導していくことも必要である。 例：合唱のパート決めは、学年ごとではなく、声種で分ける等
音楽科の授業における指導法の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 間接指導、「ずらし」「わたり」、ガイド学習・ペア学習等、主に学年別指導で行われる指導法を生かし、より効果的な指導を行う必要がある。

- 異学年合同の活動において学年差への対応についてさらに研究を深める必要がある。

ウ 感想

少人数指導の利点や離島での音楽活動全般に関する現状、今後の改善策ということについて研究を深めることができた。また、これまで課題としてもっていた「郷土の文化・地

域の音楽（島唄）と音楽教育はどうあればよいか」という点についても先生方に示唆をいただくことができた。関連して、西洋音楽を進めるための清音に対する意識の向上を図る必要があることなども教えていただいたので、日々の授業にも生かしていきたい。

(3) 奄美市立宇宿小学校の研修視察について

ア 研究主題

感じ・考え・実感する理科学習指導の充実

～学年別指導における複式理科学習指導を通して～

イ 研究内容

- ・学年別指導における指導内容の重点化，単元配列の工夫
- ・間接指導時における主体的な学びの充実
- ・ガイド学習時における学び方の育成

ウ 複式授業を参観して

過程	3年「電気の通り道」	過程	4年「電流の働き」
吟味する まとめる	<p>【前時】電気を通すつなぎ方についての実験結果の吟味とまとめ</p> <p>乾電池，豆電球，導線が一つの輪のようにつながると電気が通って明かりがつく。</p>	<p>つかむ 見通す</p> <p>第2次（問題解決の過程1サイクルを3時間で実施）</p> <p>【前時】</p> <p>モーターカーをもっと速く走らせるにはどうすればよいか。</p> <p>乾電池を2個に増やし，つなぐ</p>	
つかむ 見通す 調べる 吟味する まとめる	<p>どんなものが電気を通すのだろうか。</p> <p>通すもの はさみの切るところ，机のあし，ロッカー，くぎ，</p> <p>通さない物 紙，下敷き，えんぴつ，ノート，つくえ，ペットボトル，はさみのもつところ</p> <p>金属が電気を通す。</p>	<p>調べる</p> <p>本時</p> <p>直列つなぎor並列つなぎ</p> <p>電池2個の車</p> <p>電池1個の車</p> <p>スタート</p> <p>ゴール</p> <p>※ 2点間を進む時の車の速さを時間間で比べる。</p>	
つかむ ～ まとめる	<p>【次時】</p> <p>電気の性質を生かしたものづくり</p>	<p>吟味する まとめる</p> <p>【次時】</p> <p>乾電池2個を直列につなぐとよい。</p>	

エ 成果と課題

○ どの授業においても、「つかむ→見通す→調べる→吟味する→まとめる」といった一連の問題解決の過程を45分で終わるといった考え方ではなく、児童の実態や教材の特性から、主に「調べる」過程に重点を置く時間と「吟味する・まとめる」過程に重点を置く時間とで指導計画の配列を工夫していた点が大きな参考になった。その結果、45分の中で直接指導に当たる部分を重点化して指導することができることが分かった。

● 「調べる」過程を重点としている学年において、観察・実験の技能や記録の仕方の個人差が大きい場合、科学的なデータをとることができず、「吟味する・まとめる」過程において矛盾が生じ、うまく考えを見いだすことができないことが考えられる。よって、「見通す」過程において「どんな結果が出れば、自分たちの予想を検証できるのか。」を明確にもたせ、「調べる」過程においても適宜、その見通しと照らし合わせながら観察・実験を進めることの大切さに気付かせる継続した指導が必要であると考えられる。

(4) 広島県の研修視察について

① 広島大学附属東雲小学校

ア 学校の概要について

東雲小学校は広島市南区（広島市南西部）にあり、校区を限定してはいるものの、広島市全域から子どもたちが通学している。各学年単式2学級、複式低・中・高各1学級、養護学級低・中・高各1学級の規模である。

学年・学級	学級数	児童数	学年・学級	学級数	児童数	学年・学級	学級数	児童数
1年単式	2	80	3年単式	2	74	5年単式	2	75
複式・低	1	16	複式・中	1	16	複式・高	1	16
養護・低	1	4	養護・中	1	5	養護・高	1	3
2年単式	2	79	4年単式	2	77	6年単式	2	75

総計 学級数・・・18, 児童数・・・520

また、教育目標を以下のように設定し、附属学校としての使命を全職員で共有し、教育活動を展開している。

東雲教育目標

国際社会の中で主体的に生きる心豊かな人間の育成をめざして、たくましい体力、強靱な意志、創造的な思考力・判断力・表現力の育成を根幹とし、道徳性という緑したたる葉と美的情操という輝かしい花をつけた実践力のある子どもを育てる

このような学校教育目標の下、以下のような取り組みの重点事項を設定している。

- 1 学校教育目標の具現化に努力する。
- 2 研究主題「今、改めて『授業』を問う」を中心として、計画的、継続的、発展的に

推進する。

- 3 基盤である生活と心の安定に努める。
- 4 前提である安全の確保に努める。
- 5 複式教育・特別支援教育の一層の充実と発展に努める。
- 6 学校と家庭との相互理解，子どもと保護者と教職員の相互理解を一層深める。
- 7 学習条件（施設・設備）の充実・整備に努める。
- 8 大学との共同研究及び教育養成における協力を努める。

イ 研究内容

複式教育を通して育てたい力を「自ら学ぶ力」と「豊かな表現力」，「他者とかかわる力」の3つ設定している。「自ら学ぶ力」とは「司会の進め方や中心となっている話題など，状況に応じて話し合いを進める力」である。子どもたちが自分たちの力で授業を進めていく姿を目指している。「豊かな表現力」とは「互いの意見を聞き，自分の考えを整理して，相手にわかりやすく表現する力」である。複式学級ではじっくり互いの表現を見聞きする機会が多いので，児童主体の学習になるように，相互に表現し合う姿を目指している。

「他者とかかわる力」とは「自分の姿を振り返り，成果や課題を生かして，互いに支え合い，高まり合う力」である。異学年相互に関わり合う場，全員で力を合わせ支え合って成果を上げていく場の中で自分の成長に気付く姿を目指している。

この3つの力を育てるために，「見守り型」支援を展開している。教師は個や集団の状況を読み取りながら柔軟かつ臨機応変に対応することを目指したものである。つまり見守って状況を読むときとその状況に関わっていくときとを，意図して指導することである。

ウ 複式授業を参観して

- ・ 国語 「詩」（高学年）

「雨をあびて」「傘」「ひらく」「花」の4つの言葉を並び替えて詩をつくろうという教材であった。子どもたちが自分で考えた順序を理由をつけて発表し，ガイドが意見をまとめる姿が見られた。強調したい言葉に着目して，倒置法を生かす子どもが見られた。学習を進める中で，教師は机間指導の中で個の様子を把握しながら授業を展開していた。



【国語学年別指導の様子】

- ・ 算数 「1000より大きい数」（2年）「大きな数」（1年）

どちらの学年も教師が準備していたワークシート通りに授業を展開していた。やるこ

とが明確でスムーズに授業が進んだ。理解できていない子どもには、教師が積極的に個別に指導にあたっていた。

- ・ 国語 「風のゆうれい」(4年), 「サーカスのライオン」(3年)

どちらの学年にも積極的に子どもに個別に関わる教師の姿があった。指導後には、理由を付けて説明しガイドがまとめる子どもの姿があった。

② 成果と課題

○ 特別活動や総合的な学習を通して、体験的な学習をふんだんに取り入れることで、子どもが豊かな心と体を養うことができる環境設定を行うことの重要性をとらえることができた。

● 通学範囲が広大であることから、子どもの登下校の時間を考慮した教育課程を組むことの必要性を感じた。

③ 感想

県外の学校の様子を視察することができたいへん有意義な研修となった。とくに、複式の研究については「見守り型」の考え方がたいへん参考になった。教え込むのではなく子どもの気付きや考えを大切にする教師の姿が印象的だった。

3 おわりに

今回の視察を通して、長崎県や広島県における県外附属小学校は、複式学級の課題をプラスに転換していけるような研究テーマを設定し、授業づくりを行っていることが分かった。また、県内外の複式学級を有する公立学校でも、地域の実態に応じた適切な指導計画を立て、複式学級における創意工夫を生かした学習指導の充実に努力していることを知った。三大学連携シンポジウムでは、教科等の特性を生かす授業づくりを紹介していただいた。

子ども一人一人に応じた指導や、豊かな体験活動などを工夫し、今後も、学習指導要領の趣旨に沿って指導計画や指導方法を工夫改善し、複式学級の子どものよさや可能性を一層重視した指導を展開していきたい。